

東京電機大学技術士会のWebページについて

東京電機大学技術士会のホームページが東京電機大学校友会のホームページの中に開設され、運用が始まっています。校友会のホームページにアクセスされている方は、既にご存じで、実際に参照されている方もいらっしゃると思います。

皆様とのコミュニケーションは会報だけでは不十分です。特にイベントの情報などはタイムラグが大きすぎて、タイミングよくお伝えすることはできません。その弱点をカバーするためにHPを活用していきます。管理側では運用のためにかなり苦勞することが予想されますが、校友会の支援も得て有効に活用していきたいと考えています。皆様のアクセスをお待ちしています。

初めての方のために、以下に操作手順を記述します。是非、実際に操作してみてください。

(1) 次のいずれかにより、校友会ホームページに至る。

① 下記URLを設定し、Enter を押す。

http://www.tdu-koyu.com/proengineer/index.html

② 検索エンジンで「東京電機大学技術士会」を検索する。

(2) 「東京電機大学技術士会」トップページ。



(3) 画面上で選択することにより、会報のバックナンバー、新着情報などをご覧いただけます。

お知らせと募集

お知らせ

● 技術士サロン

「技術士サロン」は、概ね2か月毎に15:00～17:30の時間帯で、会員のための集まりとして開催します。会員であれば、どなたでも参加可能です。開放的な雰囲気の中で様々な情

募集

● 会員の広場への寄稿

会報は会員の相互交流の場でもあります。皆様の技術士活動の情報、協力者の募集、TDUGへの意見などを600字程度で寄稿ください。「会員の広場」に掲載させていただきます。(会報第7号の締切:平成28年6月末)
連絡先: eiji_okudajp@yahoo.co.jp

● 賛助会員

TDUGでは当会の目的に賛同いただき、ご支援いた

報交換や交流がはかられています。是非、一度、のぞいてみてください。

開催日はTDUGのホームページ(上記)に掲示しますのでご確認ください。(現在、平成28年度の予定は未定)

ける個人・団体を求めています。参加いただいた場合は「賛助会員」として、その名を会員名簿に掲載させていただきます。

連絡先: tdugsa@yahoo.co.jp

● 広告

TDUGでは会報に相応しい広告を受け付けます。企業PRなどに活用ください。

連絡先: tdugsa@yahoo.co.jp

■編集後記

会報は、回を重ねて6号となりました。

皆様の会報に対するニーズを確認したいと考え、先回号5号と同封でアンケートをお届けしました。「会報アンケート結果」にも記していますが、回収率が低かったのが残念でした。しかし、その結果は、不十分とはいえ、現時点の評価の一端と考えます。これまでこのようなデータは皆無でしたので、ひとつの拠り所と考えています。

その結果によれば、本会報は概ね読者の満足を得られ

ているようで、編集者としては意を強くさせていただきました。当面、これまでの延長線を編集方針として、継続発行していきます。

今回は「会員の広場」への寄稿も2件ありました。これに限らず、今後のさらなる皆様の積極的参加を期待します。

ニーズ調査は、また時期を見て実施したいと思います。引き続き、TDUGの活動と会報に対する、皆様の絶大なるご支援をお願いいたします。(E記)

編集・発行: 東京電機大学技術士会 広報委員会
奥田榮司、荒木佳昭、小滝國男、月岡誠治、奥村滋夫、西川正

東京都足立区千住旭町5
一般社団法人東京機大学校友会内
TEL: 03-5284-5140 FAX: 03-5284-5187

電波と共に67年: テレビ・ラジオ・電気通信の推進に力を発揮します。

一 営業品目

- テレビ局・ラジオ局・FM局・無線局
- 鉄塔・空中線・局舎・通信施設
- パラボラ・空中線回転装置
- 航路標識用浮標・関連施設
- テレビ共聴・CATV・移動体通信施設

設計・製作・建設・保守



株式会社 加藤電気工業所

会長 加藤康太郎(昭和33年大学1C卒)
代表取締役社長 加藤 浩章(平成元年 大学G卒)

本社 〒114-0022 東京都北区王子本町1-4-13 ☎(03)3905-7311 FAX(03)3905-5553
鳩ヶ谷工場 〒334-0013 埼玉県川口市鳩ヶ谷7-2-1 ☎(048)288-2110 FAX(048)285-6301
板倉工場 〒374-0111 群馬県邑楽郡板倉町大字海老瀬北7118 ☎(0276)82-4711 FAX(0276)82-2240

空中線回転装置

平成28年(2016)3月 第6号

TDUG 東京電機大学技術士会 会報

【目次】

- 1. 巻頭言
「技術者として、技術士会として、国民として」
- 2. 技術記事「首都高速品川線プロジェクト」
- 3. 解説「ISO9001,14001の規格改正実施」
- 4. 活動状況
- 5. 会員の広場
- 6. 会報アンケート結果
- 7. TDUG 平成27年度の行事
- 8. TDUGのWebページについて
- 9. お知らせと募集

(一社)東京電機大学校友会公認団体
東京電機大学技術士会
東京都足立区千住旭町5番

TEL: 03-5284-5140

FAX: 03-5284-5187

E-mail: tdugsa@yahoo.co.jp

巻頭言

技術者として、技術士会として、国民として

東京電機大学技術士会発足後3年、皆様の活動、お慶び申し上げます。技術士会は東京電機大学校友会の誇りです。数ある理工科系大学の中でも一段と輝き、社会に貢献する技術士会になられますようお祈りいたします。

技術を正しく活用して、幸せな社会を建設する。技術の恩恵を受けて、幸せな日常生活を送る人達があちこちに点在する。空気のように技術というものを全く気にせず、それが活用された幸せな毎日をおくる。まさに今日の日本社会はそんなものになっています。片方では技術の発展、応用製品の発展・進化に振りまわされ、毎日セコセコ落ち着きのない生活を送っている人も多くいます。

人間社会の発展・幸せ社会のために、技術を活用・コントロールする人間の心のあり様を疎かにすると大変なことになります。人間と技術のかかわりを改めて考えてみましょう。

技術は人間の頭脳・手足を通して社会に出ているのですから、技術を保有する人間の思想、心のあり様が大切です。「技術は人なり」と初代学長丹羽保次郎先生はおっしゃいました。

私流の考えでは、技術を身に付けた人の心が形を変えて技術となって社会にでるのですから、よき心でなければ本来社会に役立つ技術も、社会を害する技術になってしまうということです。その最たるものは戦争ではないでしょうか。大それた戦争でなくとも、足もとの私達の日常生活の中で発生している反社会的事件・事象も誤った考え方を持った人間によって技術が悪用されています。技術が泣いています。

技術は自然現象を解明・具象化したものです。水は高さより低きに流れる。電気は触ればビリリと来る。火に手をかざせばヤケドする。即ち、自然現象に逆えば、必ず災難・災いが身におよぶ。当然なことです。だから先人達は自然を畏敬、崇拝しました。自然に従うのが常識でした。しかし、自然の摂理に掉さず非常識が密かに漂いつつあるのが今日ではないでしょうか。この技術の悪用に走る技術者を改めさせ、技術の善用を図る役割、その指導を技術士の皆さんに期待します。自然の摂理、その善用の推進役、悪用の番人であってほしいのです。

インターネット社会は益々深化・拡大します。ネット技術を更に活用・進化させ、世界中の人間社会の幸せを願うのも技術を志す私達東京電機大学卒業生の役割でしょう。そして幸せな社会を築く。そんな時、次の様な指摘を鎌倉の禅師がされていました。

『インターネットの普及で、テレビ番組でも映画でも好きな時間に観られる。居ながらにして買い物もできる。天気予報・

一般社団法人東京電機大学校友会
理事長 松尾隆徳

ニュースとたくさんの情報を得ることができる。しかしネット普及で最も大きく変った点は、誰でも不特定多数に情報発信できる様になったことです。

ネット普及以前は、テレビ・ラジオ・新聞・書籍が情報源でした。情報源はそれなりの会社(マスコミ)であり、マスコミに許可されたり、依頼されたりしたそれなりの人達でした。つまり選抜がありました。

ネット普及によりマスコミだけでは手に入らない情報も知る事が出来る様になりましたが、この世が粗雑な言葉であふれる様にもなりました。ネットの匿名から、他人から見るとどうでもいい様なことを世間にさらし悦に入っています。

ネットを悪用し他人を誹謗・中傷する。誰が得をするのかよくわからないシステムだなと感じます。日本人は本来もっと謙虚で慎ましやかな民族ではなかったでしょうか。

ガツガツ食べ、大声で主張し、他人を傷つけても知らん顔、こんな輩の居場所を増やしても誰も幸せになりません。現状をみつめ直しましょう。』(羽村臨済会 一峰副住 義紹)

この指摘はまさに善意で提供した技術を、心ない悪者が悪用しているということで、技術者の責任ではないが、技術の提供に責任があるということです。それ故、悪用されない「ガード技術」をもっともっと開発するのが、技術者の役割です。この面では、母校東京電機大学のセキュリティー技術を社会に公開提示している事が誇りです。

こんな指摘を読んだり毎日の新聞記事を視ていると、私達日本人は、現代日本、更には世界中で技術の発展に併せ、心の教育、人に迷惑をかけない、人のお役に立つ、受けたご恩に感謝する、お天道様に恥ない堂々とした人生、自然を畏敬崇拝する心・・・を忘れない様にすることが大切だと感じます。最新技術で社会に貢献する技術者のあり方をしっかり考え、毎日を送りましょう。

今、私達が社会で活動できるのも、母校東京電機大学で学んだという事実、東京電機大学へ進学させてくれた父母・家庭、協力・支援してくれた周囲の人達のおかげであることを決して忘れてはいけません。報恩感謝が源になり、次なる土俵で活躍する力が生れます。日本古来のこの思想を再認識しましょう。

東京電機大学技術士会の更なる発展、皆様方のお幸せを祈ります。

(平成28年正月)

ISO9001:2008と14001:2004の規格がすべて2015版として改正が実施されました。この改正を受けてJIS版が2015年11月に発行されています。

認証取得されている企業では2018年9月までに新規格での認証取得が必要です。新規格で審査を受けるためには、新規格での運用が3か月以上必要で、その中には1回以上の内部監査、マネジメントレビュー実績が必須です。

すでに皆様ご承知のことと思いますが、改めて改正のポイント等を紹介いたします。紙面の関係で「品質マネジメントシステム」QMS9001:2015版を中心に話を進めます。

1. 改正のねらい

経済の変化を含めた世界の環境の変化に対応できるマネジメントシステムとした。

- ・サービス業の認証取得が増加することに対応。
- ・グローバル化する利害関係者の期待に応えた対応。
- ・高度に発展したネットワークの利用可能性に対応。
- ・テーマごとの規格で箇条構成や考え方が異なるマネジメントシステムの横断的な取り組みの難しさを「付属書」を発行して共通項目として整備することにより対応。

2. 9001:2015改正のポイント

- ・サービス業での多様化する顧客満足度を向上するためのシステム利用。
- ・国内に限らずのサプライヤー・プロバイダーの品質維持向上やエンドユーザーの満足度向上につながるシステム利用。
- ・ネットワークの高度利用で記録を紙ベース以外に広げる。
- ・付属書（マネジメントシステム規格の共通ルール）を採用することにより各種システムで統一性がなかった共通項目の整理。
- ・全体を通じてリスク管理に基づいたプロセスアプ

ローチを構築し、もともと9001に含まれていたリスクの概念をより確実化。

- ・トップマネジメントのリーダーシップ強化、パフォーマンス改善につながる評価分析経営ツールの一端を担うシステムであること。
- ・評価分析では、予防・改善を先取りするアプローチにつなげること。

3. 9001:2008→2015版への箇条概要

- ・箇条5：経営者の責任→リーダーシップ及びコミットメント。
- ・箇条6：計画→リスク機会を含めた目標達成への取り組みのための計画。
- ・箇条7：資源の運用管理→支援として満足度向上へ導くための人・技術力を含めたインフラの管理、合わせてパフォーマンスの向上。
- ・箇条8：製品実現→運用として製品・サービス（設計・開発含む）全体の管理、特に変更があった場合の責任と権限の明確化を強化。
- ・箇条9：測定、分析及び改善→パフォーマンス評価として監視・測定・分析の実施、内部監査、マネジメントレビューで改善につなげる。
- ・箇条10：是正・予防→改善として予防処置を含め継続的に不具合発生防止につなげる。

〈参考〉

①認証規格の遷り変り（2015版の正式発行日は2015年9月15日）

QMS ISO 9001:1987→1994→2000→2008→2015
EMS ISO 14001:1996→2004→2015

②認証取得数（2014年6月現在 JAB HPより）

QMS：JIS Q 9001 (ISO 9001) 品質マネジメントシステム 44,500件

EMS：JIS Q 14001 (ISO 14001) 環境マネジメントシステム 23,600件

〔文責：月岡誠治（技術士 電気電子部門）〕

活動状況(1)

◆「技術と技術士の係わり」について講義

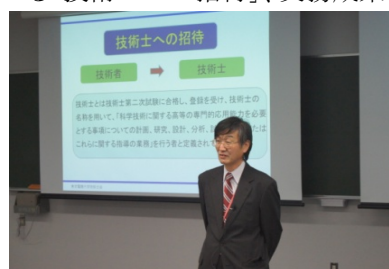
2015年11月20日 東京電機大学工学部電気電子工学科3年生の科目「パワーエレクトロニクス(枡川重男教授)」の1コマ(90分間)を頂き、「パワーエレクトロニクスと技術士の係わり」につき、TDUG幹事の杉原裕征氏、石井新一氏が講義をしました。

この講義の目的は、「技術士」の資格取得のための動機付けです。我国の将来を担う技術者の卵たちに、これから社会で技術者として活躍してもらうためには、自立した技術者となり、大成するための過程でこの資格を得ることが意義深いことを理解してもらうことです。

講義は第一部杉原氏、第二部石井氏に分けて進められました。まず、杉原氏が、技術者から技術士に至る道を紹介する「技術士への招待」、実務成果として「家庭用太陽光発電

パワーコンディショナが配電系統に与える影響の調査とその対策装置の開発(NEDO委託業務;集中連系型太陽光発電システムの実証研究)」について話されました。石井氏が、汎用インバータ(電動機駆動用インバータ)の技術開発を実行した成果としての「パワーエレクトロニクス技術と技術士(富士技報、IEEE発表論文等)」について話されました。その中で、両氏は、学生に対する期待と共に、是非とも将来「技術士」の資格を取得するよう強く勧めていただきました。

講義は、講師の方々の実際のフィールド体験が背景にあるため、リアリティに富んだ内容でした。来春の就職戦線に臨む学生にとって、実社会での仕事や企業人としての取り組みについての知識を得る良い機会になったと思われます。



講義中の杉原氏



講義中の石井氏



講義風景

◆ 見学会:大成建設/ZEB実証棟見学会

10月15日、大成建設株式会社殿のご厚意を得て、参加者14名で技術センター内のZEB (Zero Energy Building) 実証棟を見学しました。

ZEB実証棟は、様々なエネルギー管理の最先端の技術を駆使して建設されたものです。自らの年間生成エネルギーのみで消費エネルギーをすべて賄うことが可能であることを証明したオフィスビルです。他社に先駆けて、平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞しています。また、米国建築環境性能認証ほか、数々の認証を得ている同社の戦略製品でもあります。

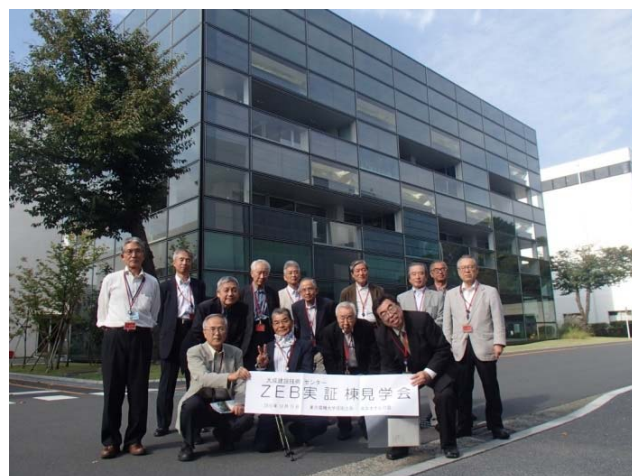
当日は、かつて技術センターに勤務されていたTDUG高見澤副会長の計らいで、ZEB 棟を離れて技術センター内の他の先端設備も見学することが叶い、通常とは異なった質の高い見学会となりました。同時に同社の高い技術をたつぷりと堪能させていただくことができました。

見学会後の懇親会でも酒食を楽しみながら、省エネ談義に花が咲き、大変意義深い見学会として終了しました。

〔主な見学場所〕

- ・ ZEB実証棟
太陽光パネル、揚光天井、自然光活用照明、
部分照明、パーソナル空調など

- ・ ヴァーチャルリアリティ
- ・ 電磁環境実験室
- ・ 津波造波装置
- ・ 免震システム



ZEB実証棟前で撮影

◆ 大学技術士会連絡協議会(大技連)

11月9日、日本技術士会 会議室にて開催された第8回総会に大館副会長と奥田副会長の2名が出席、他大学技術士会の活動状況等の情報収集に努めるとともに、懇親を図りました。当会としては今回、3回目の出席です。

第8回目の今回は、1大学(中部大学技術士会)が新たに加盟、会員は25大学となりました。この会は各大学技術士会の独自性を尊重した緩い結合の会です。しかし、今回は昨年までとは異なり、単にお互いの悩みを披露しあうだけでなく、積極的に連携、協力しようという前向きな雰囲気が感じられ、1段階ステップアップしたように感じました。以下は、その兆候と見えます。

- (1) 桜門技術士会(日大)主導で、電子会議室を開設、相互利用しようという動きがある。
- (2) (公社)日本技術士会と会員技術士会の間で相互協力協定の締結が進みつつある。

〔締結済技術士会:4大学〕

- ・ 京都大学技術士会
- ・ 柏門技術士会(都市大)
- ・ 近畿大学技術士会
- ・ 千葉工業大学技術士会

(3) 京大、阪大、東北大の各技術士会が連携、交代制での合同講演会開催を計画中である。

(4) 芝浦技術士会が継続的に公開CPD講座を開催している。当会もこれらの動きを意識し、レベルアップを図っていく必要があります。



大技連総会風景

8K 単板式スーパーハイビジョン8Kカメラ

超小型
Cube!

映像美の近未来がこのCubeに凝縮!

ASTRO

AH-4800

特長 >>>

- NHKエンジニアリングシステムの3300万画素のイメージセンサーをベースに開発したフルスペックSHV8Kカメラヘッドです。
- 駆動回路を約10cm角の筐体に内蔵することで、重量2kgという大幅な小型化を実現しました。
- デジタルシネマ撮影などで実績のあるレンズとの組み合わせで多彩な映像表現が可能です。
- さらなるリアリティが要求される各種中継映像やお天気カメラや水中撮影など、超高精細映像の可能性が広がっていきます。

現行HDTVの16倍、
3600TV本/3300万画素の
世界が広がる



アストロデザイン株式会社
URL <http://www.astrodesign.co.jp>

営業本部
〒145-0066 東京都大田区南雪谷1-5-2
TEL.03-5734-6301 FAX.03-5734-6102

大阪営業所
〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-27-1010
TEL.06-6328-8558 FAX.06-6328-5058

首都高速品川線プロジェクト

1. はじめに

平成27年3月7日に開通した首都高速中央環状品川線は、全長約47kmの中央環状線の内、高速湾岸線と高速3号渋谷線を結ぶ路線である。本稿では、品川区八潮に位置する大井北立坑を基地とし、延長約8kmの道路トンネルを構築したシールド工事について紹介します(図-1)。

2. 工事概要

本シールドトンネルは、品川区八潮から首都高速3号線付近の中央環状新宿線接続地点までの延長約8kmをφ12.53m(写真-1)の泥土圧シールド工法により掘削した工事です。トンネル路線は大井埠頭の大井北立坑を発進立坑とし、京浜運河から目黒川の地下を通過し、JR大崎駅付近からは山手通りの地下を通り、大橋JCT付近の接続部に至るルートとなっています。トンネルの途中に立坑などはなく、大井北立坑から1台のシールド掘削機で約8kmを掘削した。シールドトンネルは片側2車線の道路トンネルであり、外径φ12.3m×内径φ11.5mのセグメントを支保工として用い覆工しました(図-2)。

トンネル掘進と並行して道路床板を設置することで工程短縮を図り、反対車線として併設されたもう1本のトンネル間には、避難路となる連絡横坑や緊急車両が引き返すUターン路があり、やはり工程短縮を目的とした並行作業で施工し、高速施工を実現しました。

3. シールド工法とトンネルの種類

ここでシールド工事について簡単に説明します。シールド掘削機は、茶筒を横にしたような鋼製の筒の先端に取り付けた円盤状の回転カッターで地山を掘削し、鋼製筒の後方のテール部に支保工となるセグメントを組立て地山の崩壊を防ぐとともに、鋼製筒内部の中間部に備えたシールドジャッキでこのセグメントを押すことでシールドマシンを前進させ掘進するものです(図-3)。

トンネル工法としては、シールドトンネルの他に沈埋トンネル、山岳トンネル、開削トンネルなどがあり、シールドトンネルは密閉型機械掘り方式が多く、泥水工法、泥土圧工法などに分類されます。

4. 品川線工事

本工事で採用したシールド工法は泥土圧工法に分類される気泡シールド工法と称し、界面活性剤をシェーピングクリーム状に泡立て、カッター前面に注入し、掘削土砂と混練し生コンクリート状に流動化させ搬出します。

シールドの掘削深度は最深部で約46m、五反田出入り口付近の最浅部で約13mあります。

掘削対象地層は発進直後に軟弱シルト層である有楽町層および東京礫層があり、その後、安定した上総層群の固結粘土層あるいは砂質土層となります。

本工事の主な特徴として、

- ① φ12.53mという大断面シールドで8kmの長距離施工
- ② 全体工程短縮に向けたシールド掘進の高速施工

③ シールド工事と道路床版工、退避用連絡横坑・Uターン路の同時施工などがあります。

上記①～③の対策として、

【長距離対策】

1. 耐磨耗性の切削チップを取り付けたカッタービットを採用し硬質の固結粘土層を掘削しました。
2. 強化型先行ビットも併用し、11kmの距離を掘削可能な能力を持たせ、8kmを掘り抜きました。
3. 磨耗や欠損に対するレスキュービットなどを装備しフェールセーフ対策を行いました。

【高速施工】

1. シールド掘進とセグメント組立を同時に施工するため、3,050mmストロークのシールドジャッキを装備しました。
2. 最大掘進速度を50mm/minとする為に、φ1200mmで最大搬出能力540m³/Hのスクリューコンベアを装備し、最大カッター回転数を0.83rpmとしました。
3. セグメント幅を2.0mとし、組立リング数を減らすことで1m当たりの掘進時間を短縮させ、セグメント分割数を減らすことで、サイクルタイムを短縮させました。
4. 約8kmの坑内の残土搬出に1枚のベルトによる連続ベルトコンベアーを採用し効率化しました。
5. 掘削残土の搬出方法として、京浜運河を利用した海上運搬をすることで、周辺交通への影響を抑制することと、CO₂排出量もダンプ運搬に比べ約70%低減しました。

【道路床板・連絡横坑の並行施工】

1. 道路床板に鋼パネルとコンクリートを一体化した剛性構造を採用することで、セグメントなど坑内資機材の運搬経路を確保することができ、連絡横坑やUターン路の構築をシールド掘進と並行して行いました。
2. 多種に亘る工事を並行して施工できる工夫を盛り込むことにより、全体工程の短縮を図りました。

5. おわりに

本工事は平成21年9月からシールドマシンの組み立てを開始、平成22年1月より掘進を開始し平成23年12月に到達、約2年で掘進を終了しました。平成23年3月の東日本大震災時には半月間掘進を停止し、平成23年5～6月には地中支障物撤去により掘進を停止している。この間、最大日進量は38m/日、最大月進量は637m/月、平均月進量は507m/月(特殊部を除く)という記録を達成しました。隣接工区に比べ、約1年近く遅いシールド発進であるが、シールドマシンをはじめ設備の重大トラブルの発生もなく、途中で隣接の先行シールドを追い抜き約3か月早く到達しました。定期的な設備のメンテナンスの実施と、設備能力を無理なく有効に活用し、安全確実な施工を行った結果と考えられます。

高見澤計夫(Ⅰ部-S47E卒)
技術士:建設部門



◆ “お・も・て・な・し”が日本のモノ作りを救う??

石川晃一(Ⅰ部-S60E卒)
技術士:電気電子部門

愛知県で、毎回、会報が届くのを楽しみにしています。4号からは、会員の方からの記事なども誌面を飾るようになり、TDUGの活動の幅も広がってきたと感じております。愛知県在住のサラリーマンの身では、北千住開催のサロンへの参加はなかなか難しく、会員の広場に投稿して活動の広がりに参加させて頂こうとした次第です。

さて、表題ですが、海外新工場の視察に行ってみると外からは綺麗に見える建屋も内を見ると窓のサンは凸凹だらけ、配線の接続は裸線を絡めているだけということがありましたので考えてみました。

その時は、確かに機能を果たしていれば良いと言われればそれまでですが、日本と海外の気配り力の差を感じました。ところが、最近国内でも機能最優先が進んで、図面の記載

◆ 経営者の強い意思が、世界に通用する技術者を育てた

吉田義昭(Ⅰ部-54P卒)
技術士:総合技術監理・金属部門

昭和54年工学部一部精密機械工学科を卒業し、昨年重電機メーカー(勤続35年)を退職。その後、子会社(電気工事・物流会社)に勤務する企業内技術士です。

話は、1991年に遡ります。同年就任したS社長は、世界で通用する技術者を育成するためには、博士、技術士の取得を積極的に支援するという企業方針を打ち出しました。技術士コースのリーダーは、S社長自ら勤め、技術士を取得する目的意義について、“技術は会社のためではなく社会に役立ててこそ意味がある”との揺るぎない強い意思を示されました。そして、社長という立場を離れて我々若手技術者に対し、資格取得のため丁重かつ適切な論文添削や面接指導を行ってくださったことが、我々に感銘を与え社内に多くの技術士を生む結果に結びついていました。後に知ることになりましたが、S社長は小説家の曾野綾子氏の著書“湖水誕生”の主人公のモデルであり、土木学会々長、技術士試験官などを歴任した生粋の土木屋で“ダム作りの名人”と言われる、日本を代表する土木技術者でした。

会報アンケート結果

先回、会報の発行が5号に達したので、皆様のニーズを確認するためアンケートを実施しました。会報は300名の方にお届けしていますが、回収率が低く、その回答者年齢は60歳以上が75%という低調な結果でした。

この結果は、回収率が低い、回答者の偏り、という問題がありますが、現時点における読者の評価の一端と考えます。その結果によれば、内容、発行回数、ページ数などの満足度が高く、現状の会報発行の考え方は、概ね満足されていると考えられます。

このアンケートの中で、会報だけでなく当会の活動全般について、以下のような要望がありました。

- (1) 取上げて欲しい記事
 - ① 技術記事、トピックス、CPD紹介
 - ② エネルギー問題
 - ③ 他大学技術士会の活動状況
- (2) 講演会の開催(他大学技術士会との合同を含む)
- (3) 「技術士資格の有効活用法」の紹介

これらの要望については、今後の参考にさせていただきます。可能なものは、取り入れさせていただきます。

そのためには、体制を強化、活発な活動が求められますが、当会の活動に参加・協力いただけるという声はほとんどありませんでした。この問題を解消することが当面の課題と考えられます。

がないから正しくできない、と言った出来事が目立っています。以前では問題なく作れていたはずなのに、また、工場やプラントの爆発事故や火災事故といった事故も急に増え、どうしてしまったのかと気になっています。そんな最中に東京オリンピック招致で“お・も・て・な・し”を聞き、気配り力が日本の大きな力であると再認識しました。

図面に記載のない注釈を読み取る気配り力を評価し、管理マニュアルでは書ききれない気配りのある管理技術力を評価し、グローバル路線ではない日本的なモノ作りが復活できないだろうかと思う今日です。

少し古くなってしまった言葉ですが、“お・も・て・な・し”という気配り力で日本のモノ作りが復活できないかという思いを述べさせて頂きました。

表面的にしか捉えていないかもしれませんが、会員の皆様のご意見を頂ければ幸いです。

資格取得後、私は会社の業務に影響しない範囲で、技術士として活動も許可され、埼玉県産業技術総合センター技術アドバイザーに登録、同センターのHPを通じて求められた県内外の企業のコンサルテーションに対応してきました。おかげで、会社員と技術士の二足のわらじで活動を許可してくれた、寛容な会社に勤めていたことも幸いし、20年間に数十社へのコンサルティングを行うことができました。

技術士を取得してから社内でも異例の抜擢人事もありました。JSOX法の内部統制の構築やマーケティングの導入などパイオニア的な業務を命ぜられました。これは、技術士が持つコンサルタント的な能力を企業が必要とし、高く評価してくれたことの現われであったと考えています。

TDU技術士会には発足と同時に参加しましたが、少々残念なことがあります。電気電子・建築部門の技術士が、多数参加しているにもかかわらず、機械・金属部門は、数えるほどの人数です。大学には、35年ほど前から機械関連学科が3学科もありますが、機械・金属系の技術士が少ない。是非、機械系の後輩、学生諸君にも取得を目指してもらいたいと考えています。

TDUG 平成27年度の行事

平成27年	3月28日(土)	平成27年度定時総会 公開講演会
	5月 9日(土)	技術士サロン 第13回役員会
	7月 4日(土)	技術士サロン 第14回役員会
	9月 1日(火)	会報第5号発行
	9月 5日(土)	技術士サロン 第15回役員会
	10月15日(木)	見学会「大成建設(株)技術センター」
	11月28日(土)	技術士サロン 第16回役員会
平成28年	2月20日(土)	技術士サロン 第17回役員会
	3月 1日(火)	会報第6号発行
	3月26日(土)	平成28年度定時総会 公開講演会

